

令和5年度



長崎県学力調査

中学校第2学年 国語

注意

- 1 先生の合図があるまで、冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから14ページまであります。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 解答は指示された解答欄（らん）に記入してください。解答欄からはみ出さないように書いてください。
- 5 印刷がはっきりしなくて読めない場合は、静かに手をあげてください。ただし、問題の内容に関する質問には答えられません。
- 6 解答時間は45分間です。
- 7 解答用紙には、「組」、「番号」、「氏名」を書く所があります。まちがいのないように書いてください。
- 8 解答用紙の「補助票」には何も記入しないでください。

1

木村さんは、国語の時間に、「普段の生活で興味をもっていること」についてスピーチをする学習に取り組んでいます。次の場面は、発表会の前に、スピーチの練習を撮影した動画を佐藤さんに見せ、アドバイスをもらっているところです。

【木村さんのスピーチ】

みなさんは、自分の体を守るために何か意識していることがありますか。私は最近、かんせんしやう感染症を予防するために何ができるかをよく考えています。商業施設や病院など、多くの人が集まるところでは、消毒用のアルコールが準備されており、みなさんも利用しているのではないのでしょうか。感染の経路を断つためにできることの一つに、毎日の「手洗い」が挙げられます。

手洗いをしたほうがいいということは、だれ誰もが知っていることだと思います。私は、学校で、食事の前やトイレの後など、必ず正しいに手を洗うことを心がけていますが、きちんと洗えているか不安になるときがあります。実は、効果的な手洗いには、固形石けんやハンドソープ、そしてその泡あわが重要なのです。

動画を止める

【二人の会話の一部】



佐藤さん 木村さん

佐藤

ここで動画を止めてください。①「みなさんは、自分の体を守るために何か意識していることがありますか」という問いかけは、とてもいいと思います。

木村

ありがとうございます。

佐藤

ただ、

ア

と、感染症の予防には「手洗い」が重要であるということが、より伝わりやすいのではないのでしょうか。

木村

分かりました。

固形石けんやハンドソープには、汚れを浮かせて落ちやすくする成分が含まれています。そのため、固形石けんやハンドソープを使ったほうが、水だけで手を洗うよりもしっかりと汚れを落とせるのです。石けんをしっかりと泡立てれば、泡は細かくなり、汚れが泡に包まれやすくなります。最後に泡の付いた手を流水ですすぐことで、ウイルスや細菌などもさらに取り除きやすくなります。つまり、効果的な手洗いのポイントは、固形石けんやハンドソープを使うこと、そしてきめ細かな泡を立てて洗うことなのです。

動画を止める

感染症の予防のために、私は外出先や人が集まる公共の場所でも、石けんなどを使って積極的に手を洗いたいと思っています。みなさんも普段から効果的な手洗いを実践し、自分自身の体を守っていきましょう。

動画を止める

佐藤

手の汚れを落とすには、固形石けんやハンドソープを使うことや、石けんをしっかりと泡立てることが大切であるということが、分かりやすい言葉で説明できていると思います。

木村

ありがとうございます。できるだけ難しい言葉を使わないように心がけました。発表会では落ち着いて話し、内容がきちんと伝わるように頑張ります。

佐藤

木村さんが伝えたい内容は分かりました。ただ、スピーチの冒頭からずっと同じ調子で話しているので、どこかで②声の大きさや強弱、間の取り方や視線の方向などを工夫してみてもいいでしょうか。

木村

なるほど、話し方を工夫してみます。

一 **【二人の会話の一部】**の——線部①「みなさんは、自分の体を守るために何か意識していることがありますか」という問いかけは、とてもいいと思います。」とありますが、佐藤さんがこの部分をいいと感じた理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 自分の発言の要点を確認することで、理解がより確かなものになるから。
- 2 自分の発言の内容をまとめることで、問題点が分かりやすくなるから。
- 3 聞き手に問いかけることで、聞き手が自分の問題として考えられるから。
- 4 聞き手の様子を確認することで、聞き手から多くの情報を得られるから。

二 **【二人の会話の一部】**の **ア** で、佐藤さんはスピーチについてアドバイスをしています。その内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 自分の体を守るという目的に加えて、家族や友達健康を守ることも主張する
- 2 アルコール消毒の紹介をしている部分に、人が密集する危険性の説明を加える
- 3 感染経路の一つとして、手や指からの感染が考えられるという現状を説明する
- 4 毎日の感染症対策として、「手洗い」だけでなく「うがい」の説明も付け加える

三 次は、木村さんが発表会を終えて書いた【振り返りの一部】です。これを読んであとの問いに答えなさい。

【振り返りの一部】

……スピーチ発表会の前に、佐藤さんにアドバイスをもらいました。感染症予防のための、効果的な「手洗い」のポイントが聞き手に伝わるように、文章の内容を何度も練り直し、よりよいものにする事ができました。また、目線や声の調子について指摘を受けました。そこで私は、スピーチの最後の「みなさんも普段から効果的な手洗いを実践し、自分自身の体を守っていきましよう。」という部分の印象を強めるために、聞いている人たちを見渡しながらか話しました。すると、深くうなずいてくれた人がいたので、自信ができました。自分の意見を伝えたいときには、聞き手を見て話すことが大切だと感じました。……

(1) 〓 線部「文章の内容を何度も練り直し、よりよいものにする」という意味の故事成語を、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 杞憂 きゆう
- 2 矛盾 むじゆん
- 3 蛇足 だそく
- 4 推敲 すいこう

(2) 木村さんは、【二人の会話の一部】の——線部②「声の大きさや強弱、間の取り方や視線の方向などを工夫してみてはどうでしょうか。」という指摘を受けて、……のように自分のスピーチを工夫しました。あなたなら、【木村さんのスピーチ】のどの部分をどのように工夫して話しますか。次の条件1と条件2に合うように書きなさい。

条件1 【木村さんのスピーチ】のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、声の大きさや強弱、間の取り方や

視線の方向などに着目して具体的に書くこと。

条件2 条件1のように話す理由を書くこと。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「どんべえ」は「私」が生後三、四か月のころから育てているメスのヒゲマである。あるとき、「私」のポケットの中に入ったおやつを探そうとした。「どんべえ」は、初めて攻撃をしかけてきた。後足で立ち、肩を怒らせた。「どんべえ」は、明らかに敵意をもって「私」に反抗してきたのだった。

いつかはくる、そのようなときがくる——と私は覚悟はしていた。子ぐまはやがて成長し、実の母親とさえかみ合いをして子別れの儀式をすませるのだ。むちで調教をしない限り、いつかはそんなときがくる。親しければ親しいほど、*のつびきならぬ衝突がさけられぬ。

私はどんべえをにらみつけた。

① どんべえはのどの奥から、クハ、クハ、と聞こえる攻撃音を出した。それは私たちが親しい間柄にならぬときに聞いて以来、絶えて久しく私やヒゲには、アビせられたことのない声であった。

私は踏みこんだ。

「ふざけるな。」

しかりとばした。

このおれに対して、攻撃をしかけてくるなど何事であるか。怒りがむらむらとこみあげてきた。ふざけるな。冗談じゃねえや。なめられてたまるか。

踏みこむと、どんべえは後ずさった。そして、自分が後退したことに、自ら腹を立てたようだった。

クツ、ハー。

攻撃音が激しくなって、顔の縦じわがいつそう深くなった。きばがもうくつきり見えた。唇がめくれあがっている。奥歯をこすり合わせる音がした。

私は危険を感じた。

同時に、すでに身をひくことはできないと感じ取ってもいた。一歩後退するのは死につながるだろう。ましてや安全な所へ出ようと後ろを見せれば、くまはとびかかってくるにちがいない。それは親しさとは別のものだ。いつかは力と力で対決しなければならぬ野性の論理である。

死か——。

それもよからうと私はちらと思った。小さいころから、手塩にかけて育てた友人にばらばらにされるのは、*ムツゴロウにふさわしい。

私はにやりとした。その笑いをほおから消すと、しんと落ち着いた心境になった。すでに自分の生や死は問題ではなかった。③ 今、

この瞬間を最高に生きてやれ——そういった闘志のようなものが怒りといっしょになって胸の内であふくれ、目がかがやくのが自分で分かった。私は自分が透明になった気がした。

どんべえは私にとびかかろうとした。けれども、④ 何かに制せられ、

じれて、

グツ、ワー……。

⑤ ライオンみたいにほえた。それは私が初めて聞く、雄々しい、野

獣らしい咆哮だった。

攻撃にストップをかけたものは、たぶん私との生活の積み上げだったろう。けれどもそれにあまえていい場合ではなかった。殺るか殺られるか。決着をつけねばならぬ瞬間が刻々と近づいている。

⑥ 私は踏みこんだ。無言で、ひとみに力をこめ。

どんべえが後退した。

「このやろう。」

私はどなりつけた。

どんべえが、うわあ、と絶望的な声を出した。これ以上近づいてくれるなどいつているようでもあった。しかし表情のゆがみはそのままだった。私にはそれが邪悪なものときえ映った。

たとえどんなに小さな動物であつても、追いつめられたところで、一転してしんけんにはむかつてくるときは非常にこわい。たぬきやきつねが逃げるのをやめ、きばをむき出しにしてほえたてる姿には魔物じみた迫力がある。彼らはそれこそ全存在をかけている。死んでもいいという気迫がじかに伝わってきて、大の男がすくんでしまう。ましてやどんべえはくまだ。それも二百キロをこえた巨体をほくるくまだった。

くるつたようにほえ、全身の毛をⅡ逆立てて反抗するさまはみごとだった。もし動物を全く知らない人が前に立たねばならぬとしたら、そのあまりのすごさに圧倒され、心臓麻痺か何かで死んでしまおうだろう。

私は自分の命が、薄い、一枚の紙になつたのが見えるような気がした。小石一つで穴が開くし、ましてや、つめをかけられれば、それで終わりになってしまう……。

それでも前に踏み出した。すると、どんべえが絶望的な大声でほえたてた。耳が聞こえなくなるくらいのも、とてつもなく大きな声だった。

体のどこかで、私は感動していた。これでこそ動物だと、そのただけしさにうっとりしていた。けれども、半面、負けてたまるかという熱いものもあった。

——ここで負けてたまるものか。おれはおまえの赤ん坊を取り上げるのを楽しみにしてこれまで生きてきたんだぞ。

自命の生死は天のみが知っている。どんべえよ、お前が自立のためにおれを倒さねばならぬのなら、ようし、正面からかかってこい。おれを倒して一人前のくまになれ。

闘志が全身にあふれ、私は闘うことだけに集中した。

「やるか、やろうめ。」

吐き捨てるようにつぶやいて、私はまた前に歩を踏み出した。

顔と顔はもう、くつつかんばかりだった。私の目から十センチとはなれていない所で、どんべえのきばがひらめき、※肺腑をえぐるようなほえ声がひびいた。

私も負けずに、ありつたけの声でほえた。胃や腸がとび出すのではないかと思えるほど口を開いて。

どんべえは後退しつつ、右の前足で私をなぐりつけた。

攻撃は、一瞬木立をかけぬける風と同じだった。私の左のほおが切れ、ジャンパーがさけた。肩から腹まで、ざっくり、三つの割れ目できていた。

もしまともに当たったら、私は血へどを吐いて倒れたらう。それで一卷の終わりだ。

どんべえは明らかに手かげんをしたのだろう。しかし、手かげんしつつも攻撃をしかけたことで、怒りはさらにふくれあがったらしく、目の充血はⅢチョウテンに達していた。⑤双の目が赤く燃えるようだった。

私も火の玉になっている。

踏みこんだ。

相手がパンチを繰り出そうと身構えかかっているところへ、私のストレートが飛びこんだ。こぶしがひねりを加えながら、ほおの、犬歯のすぐ後ろへ食いこんだ。グラブをつけている試合ではないので、

衝撃しょうげきがもろにこぶしに集中し、指の骨が折れた感じがした。

「ばかぐまめ。」

私はどなった。あまりにもしんけんであったため、声が割れ、のどが痛んだ。

なぐられたどんべえは、うろたえる表情をうかべた。しりを後ろに引く。下から見上げる目つきが卑屈ひくつになる。

勝った、と私は自信を持った。

勝ち負けを争う勝負事ではないけれど、逃げようのない形で対決した二つの命の間に結論が出たのである。

私はさらに踏みこんで、右フックを振り下ろした。どんべえは首を振ってさけ、右フックはみごとに空を切った。

「やろうめ。」

私はもう一発きついパンチを見まおうと、こぶしを引きつける。と、どんべえが逃げた。

追う。

どんべえは、プールの中へ飛びこんだ。水から顔だけを出し、唇をとんがらかして、あまく※くぐもった声で長く鳴いた。

その前に仁王立ちになり、

「このやろう、どんべえめ。好き勝手をすると承知しないぞ。」

しかると、どんべえは、首を曲げ、唇の両端りょうたんを下へさげて、まるでガムでもかむように、くちやくちやくと舌を鳴らし始めた。それはどんべえが幼時に見せた、ごめんなさいのしぐさであった。

大きなくまが、ごめんなさいを――。

胸がいっぱいになった。

「もうよし、おいで。」

私は涙声なみだごえになり、優しく言った。

どんべえはまだ、顔を曲げ、よだれを流し続けている。

「いいんだよ。」

私はねころんだ。

◎ 初冬の空にいわし雲がういていた。

目をつむる。

原野を風が転がっていつている。こずえが鳴っている。落ち葉が大地でこすれ合い、かわいた、かすかな音楽をかなでている。

顔にぼたりとしずくが落ちた。プールから上がったきたどんべえだった。

◎ 私は目を開けたくなかった。

熱い鼻息がほおにかかった。しばらくして、かたくあらいくまの皮膚ひふが、ざらりと顔をなであげる。どんべえは四つんばいになり、私に顔をこすりつけているのである。

そして、たまりかねたかのように、私の横に身を投げ出し、小さくうなりつつ、何度も何度も顔をこすりつけてきた。私はこらえきれなくなり、そんなどんべえを、◎ きつくきつくかきいだくのであった。

※ のつぴきならぬ…避けることも退くこともできず、動きがとれない。

※ ヒゲ…作者の弟。動物飼育の協力者。

※ ムツゴロウ…作者自身がつけた自分のニックネーム。

※ 咆哮…動物などがほえさげぶこと。

※ 肺腑はいふをえぐるような…人の心に強い衝撃しょうげきを与えるような。

※ くぐもる…声などがこもり、はつきりしない。

(平成元年度版 東京書籍「新しい国語」1 畑 正憲 「対決」による)

一 ― 線部①「どんべえは」は、どこにかかりますか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 のどの奥から
- 2 クハ、クハ、と聞こえる
- 3 攻撃音を
- 4 出した

二 ― 線部②「手塩にかけて」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 かなりの大金を支払っているさま
- 2 自分で世話をして大切にしているさま
- 3 とても冷たい様子で接するさま
- 4 たくさんの人の協力を得るさま

三 ― 線部③「今、この瞬間を最高に生きてやれ」について、次のようにまとめました。()に入る適切な言葉を、文章中から、それぞれ指定された文字数で抜き出さない。

○ もはや自分の(ア 三字)に対するこだわりは消え、ただひたすらに「どんべえ」と
(イ 二字)しなければならぬという思いに至った、ということを表している。

四 ― 線部④「何かに制せられ」とありますが、「私」は「どんべえ」を制したものは何だったと考えていましたか。本文中から十字で抜き出さない。

五 文章中の~~~~~線部Ⅰ~Ⅲのカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直し、楷書でていねいに書きなさい。

- Ⅰ アビせられ
- Ⅱ 逆立てて
- Ⅲ チョウテンに達して

六 — 線部⑤「双の目が赤く燃えるようだった。」について、各問いに答えなさい。

(1) ここで用いられている表現の技法の名称を書きなさい。

(2) また、(1)と同じ表現の技法が用いられているものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 …… 線部①「ライオンみたいにほえた。」

2 …… 線部②「私は踏みこんだ。無言で、ひとみに力をこめ。」

3 …… 線部③「初冬の空にいわし雲がういていた。」

4 …… 線部④「きつくきつくかきいだくのであった。」

七 — 線部⑥「私は目を開けたくなかった。」という表現について、あるクラスで次のような話し合いを行いました。次の

線部の（ ）について、文章中の言葉を使って、解答欄に合うように書きなさい。

坂口 どうして「私」は目を開けたくなかったのかな。

平野 自分に攻撃をしてきた「どんべえ」を許せなかったのかもしれないね。

永瀬 そうではないと思うよ。なぜなら、「どんべえ」が（ ）をしていることに対して、

「私」は（ ）からね。

坂口 なるほど。どうも怒っていたわけではなさそうだね。

永瀬 「私」は、ほっとした気持ちでねころんでいたんだと思う。

坂口 そうだね。風や自然の音を感じながら、たくさんさんの感情を味わっていたのではないかな。他にも考えられる理由はないかな。

平野 本文に「子別れの儀式」とあるから、「どんべえ」の成長をじつとかみしめていたのかもしれないね。

問題は次のページに続きます。

【意見文の下書き】

先日、「食品ロスをなくそう」というポスターを見かけた。新聞や広告でも「食品ロス」という言葉をよく目にする。「食品ロス」とは、本来は食べられるのに捨てられてしまう食品のことだ。今後、世界の人口増加や、気候変動による食糧不足しよくりゆうが予想される中、私たちは、食品ロスをなくすための取組をもっと行うべきだ。

ニュースでは、まだ食べられるのに食品が廃棄はいきされていたり、レストランで残飯が捨てられていたりすることが話題になっている。私の学校の給食調理員さんの話によると、好き嫌いきらが原因で給食を残す人が多く、残食が減らないとのことだ。

そこで、我が国の食品ロスの状況じようきようについて調べてみた。

農林水産省の資料によると、食品ロス量は年間約522万トンもあり、そのうち各家庭から発生する「家庭系」食品ロスは、約247万トンだった。①食品ロスの約半分は家庭から出ているという現状が分かった。私は、こんなに多くの食品を捨てているという事実おどろに驚いた。そして、私たち一人一人が食べ物を無駄むだにせず、もっと大切にしていこうべきだと考えた。

では、食品ロスを減らすために私たちにできることは何だろうか。我が家で行っていることについて、母たずに尋ねてみた。すると、スマートフォンで冷蔵庫の中を撮影するなど、食材をチェックして買い物に行くように心がけていると話してくれた。このことによって、同じ物を買ってしまうことが減った。調べてみると、食品ロスをなくす取組は、他にもいろいろあるようだ。

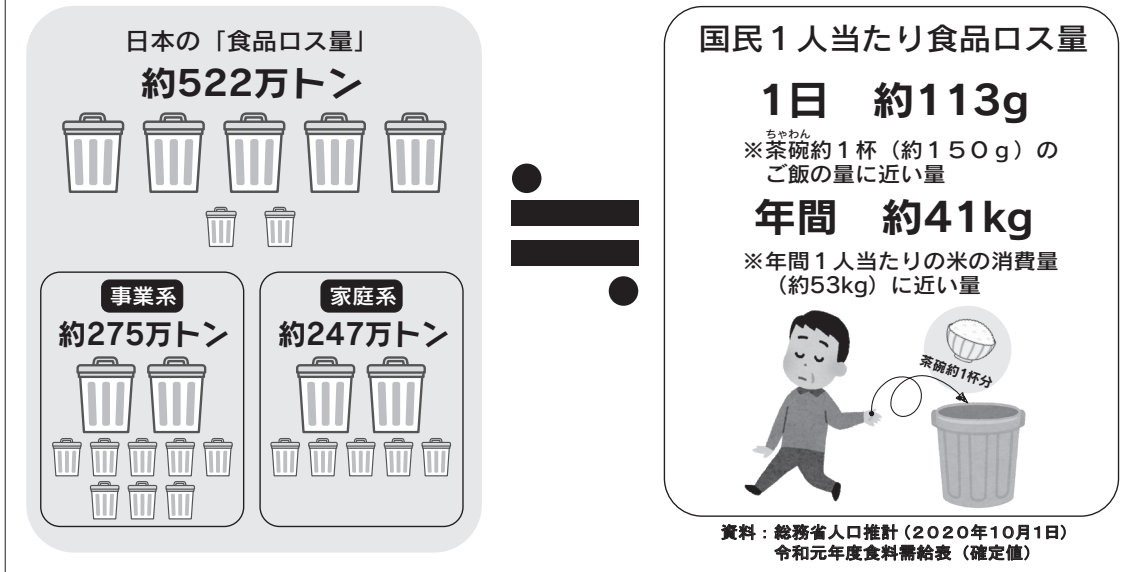
食品ロスを減らすための小さな行動も、一人一人が実行に移すことで大きな削減さくげんにつながると考える。身近なところから食品ロスを減らす工夫をしてみようだろうか。



青木さんは、国語の時間に、「食品ロスについて」というテーマで意見文を書きました。次は、青木さんが書いた【意見文の下書き】と、意見文を書くために集めた【資料】、青木さんがアドバイスを受けて集めた【消費者庁のウェブサイトにある資料の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【資料】

日本の食品ロスの状況（令和2年度）



「食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢」<令和4年8月時点版>

（農林水産省 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室）を基に作成

【消費者庁のウェブサイトにある資料の一部】

お買物編

1 買物前に、食材をチェック

買物前に、冷蔵庫や食品庫にある食材を確認する



▶メモ書きや携帯・スマホで撮影し、買物時の参考にする

2 必要な分だけ買う

使う分・食べきれぬ量だけ買う

▶まとめ買いを避け、必要な分だけ買って、食べきる



3 期限表示を知って、賢く買う

利用予定と照らして、期限表示を確認する

▶すぐ使う食品は、棚の手前から取る



ご家庭編

1 適切に保存する

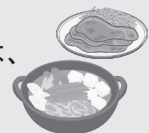
▶食品に記載された保存方法に従って保存する

▶野菜は、冷凍・茹でるなどの下処理をして、ストックする



2 食材を上手に使いきる

▶残っている食材から使う
▶作り過ぎて残った料理は、リメイクレシピなどで工夫する



クックパッド消費者庁のキッチンリメイクや食材を使いきるレシピを参考にしてみましょう。詳しくはQRコードへ



3 食べきれぬ量を作る

▶体調や健康、家族の予定も配慮する



食品ロス削減 啓発用三角柱（買物編・家庭編）（令和3年度版）の一部を加工して作成

一 青木さんが考えた【意見文の下書き】の構成について説明した文として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 複数の異なる内容の主張を伝えるために、自分の主張を最初と最後の段落に書いている。
- 2 自分の主張する内容を明確に伝えるために、自分の主張を最初と最後の段落に書いている。
- 3 読み手が主張を予想しながら読めるように、自分の主張を最後の段落に書いている。
- 4 読み手が主張と事例との関係と比較して読めるように、自分の主張を最後の段落に書いている。

二 青木さんは、【意見文の下書き】の~~~~~線部「減った」を「減ったそうだ」に直すことにしました。その理由として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 自分の体験であることを明確にするため。
- 2 自分の推測であることを明確にするため。
- 3 母から聞いた内容であることを明確にするため。
- 4 母が否定した内容であることを明確にするため。

三 青木さんの学級では【意見文の下書き】を読み合って、グループ内でお互いにアドバイスをしました。【アドバイスの内容】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【アドバイスの内容】

大田 青木さんの意見文は、【資料】から具体的な数値を示しているけれど、（
石川 食品ロスについては、私もみんなで取り組んでいく問題だと思います。調べてみると、食品ロスをなくす取組は、他にもいろいろあるようだ。と書いているけれど、食材のチェックの他にどのようなものがあるのか、具体的に書いたほうがよいのではないのでしょうか。
小林 私も同感です。食品ロスをなくす活動を紹介することで、みんなもやってみようという動機づけになると思います。

(1) 青木さんは、大田さんのアドバイスを受けて【意見文の下書き】④のあとに、「一人当たりの食品ロスの量はなんと年間約41kgもあるのだ。」を加えました。大田さんのアドバイスの内容として（ ）に入る最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 イメージしやすい数値を示すことで、自分のこととして考えやすくした方がよいのではないのでしょうか
- 2 読み手にうったえかける表現にすることで、新たな興味が広がるようにした方がよいのではないのでしょうか
- 3 大切なことを繰り返し返す表現にすることで、インパクトを与えた方がよいのではないのでしょうか
- 4 数字以外のデータも示すことで、誰しもが共感しやすくなった方がよいのではないのでしょうか

(2) 青木さんは、石川さんと小林さんからの【アドバイスの内容】を踏まえて、調べてみると、食品ロスをなくす取組は、他にもいろいろあるようだ。のすぐあとに、食品ロスをなくす取組を書き加えることにしました。あなたならどのように書き加えますか。次の**条件1**と**条件2**に合うように書きなさい。

条件1 【消費者庁のウェブサイトにある資料の一部】から必要な情報を引用して書くこと。

引用する部分は、かぎかっこ「」でくくること。

条件2 「例えば、消費者庁のウェブサイトにある資料には、」に続けて書くこと。

これで、**国語の問題は終わり**です。